

ハイドンの ロンドン精神

Vol.3

ヨハン・クリスチャン・バッハ
交響曲ト短調Op.6No.6

ハイドン
交響曲第97番ハ長調

ハイドン
交響曲第98番変ロ長調

やむを得ない事情で公演の中止または演奏曲目・曲順が変更になる場合がございますのでご了承ください。



指揮
角田鋼亮 (常任指揮者)

© Hikaru Hoshi

2022年12月8日(木) 18:45開演
(18:00開場)

ザコンサートホール
名古屋・伏見・電気文化会館

☎052-204-1133 名古屋市中区栄2-2-5(地下鉄「伏見」駅より徒歩2分)

入場料(全指定席) 一般 4,000円 / U25 1,000円

※未就学児入場不可 ※U25席は座席指定不可、公演日に25歳以下対象、要身分証明書[当回事務局のみの取扱い]

発売日 一般9/7 [会員先行9/5、6]

※当団会員様は会員先行発売日のご購入・会員割引価格でのご購入が可能です。[当回事務局のみの取扱い]

プレイガイド ●愛知芸術文化センタープレイガイド ☎052-972-0430

●チケットぴあ <https://t.pia.jp/Pコード> [221-076]

お申込み
お問合せ

セントラル愛知交響楽団 ☎052-581-3851 ホームページからもお申込みいただけます。
(10:00~17:30/土日祝休) <http://www.caso.jp>



主催 / 公益社団法人セントラル愛知交響楽団 後援 / 愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会 助成 / 公益財団法人アフィニス文化財団



ハイドンの ロンドン精神

Vol.3

「ハイドンのロンドン精神」も第3回目となりました。皆様になんげつセントラル愛知のハイドンの演奏スタイルが伝わってきたのではないかと思います。今回も生気がみなぎる演奏をお届けできたらと思っています。取り上げるのは第97番と第98番。この2つの交響曲にはそれぞれ完全に違う表情があり、同じ作曲家の作品と思えません。

第97番の第1楽章は堂々とした風格のようなものがあり、後のベートーヴェンの作品を予感させます。可愛らしさと優美さが同居した第2楽章でも、途中、険しく自己問答を繰り返すような箇所が印象的です。第3楽章と第4楽章は清々しさと輝きでいっぱい。これぞハ長調といった魅力に溢れます。

一方、第98番は序奏から謎めいた雰囲気。主部では細かい音符の動きとチェンバロの響きが独特の世界を作り出します。白眉なのは第2楽章。精神性の深い音楽があり、こちらはモーツァルトの「ジュピター」交響曲の緩徐楽章を思わせます。メヌエットでは各楽器の活躍にご注目ください。開放感のある第4楽章ですが、途中で、何度か「え！」となる事請け合いです。ぜひ最初に聴く機会を大事にして頂けたらと思います。

「ロンドンのバッハ」と言われるクリスチャン・バッハの作品にもぜひご期待を。

セントラル愛知交響楽団常任指揮者 角田 鋼亮

[指揮] 角田鋼亮 Kosuke Tsunoda

東京芸術大学大学院指揮科修士課程並びにベルリン音楽大学国家演奏家資格課程修了。2002年、安宅賞受賞。2006年、第3回ドイツ全音楽大学・指揮コンクールで最高位を獲得。2008年、カラヤン生誕100周年記念の第4回ドイツ全音楽大学指揮コンクール第2位入賞。2010年、第3回マーラー指揮コンクールにおいて最終の6人に残った。これまでに、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、ブランデンブルグ交響楽団、上海歌劇院管弦楽団、札幌交響楽団、山形交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、群馬交響楽団、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京都交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、京都市交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団、大阪交響楽団、広島交響楽団、九州交響楽団と共演している。2015年より、セントラル愛知交響楽団の指揮者に就任。2016年、セントラル愛知交響楽団第145回定期演奏会（シベリウス&山田耕筰作品）が高く評価され、「第11回名古屋ベンクラブ音楽賞」を受賞。2019年4月より、セントラル愛知交響楽団常任指揮者に就任。仙台フィルハーモニー管弦楽団においても指揮者のポジションを務めており、いま日本で最も期待される若手指揮者の一人として活躍の場を拓いている。2016-2020年、大阪フィルハーモニー交響楽団指揮者。2020年「令和元年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞」「名古屋市文化振興事業団第36回芸術創造賞」を受賞。2022-2023シーズンのハイライトとしては、セントラル愛知交響楽団「ブルックナー：交響曲第5番」「マーラー：大地の歌（室内オーケストラ編曲版）」、愛知県芸術劇場「モーツァルト：バスティアンとバステイエンヌ」、京都市交響楽団「ブラームス：ドイツ・レクイエム」、大阪フィルハーモニー交響楽団「ベートーヴェン：ミサ・ソレムニス」等があげられる。
<http://kosuketsunoda.com>

セントラル愛知交響楽団 Central Aichi Symphony Orchestra

1983年ナゴヤシティ管弦楽団として発足。岩倉市との音楽文化普及事業委託契約による事業補助を受け1997年に現名称に改名。2021年4月に愛知県より認定を受け公益社団法人となる。2019年4月から常任指揮者に名古屋出身の角田鋼亮が就任。名誉音楽監督にレオシュ・スワロフスキー、桂冠指揮者に小松長生、特別客演指揮者に松尾葉子、首席客演指揮者に齊藤一郎、正指揮者に古谷誠一を擁し活動を行う。定期演奏会、コンチェルトシリーズ等の自主公演の他、バレエ、オペラ、ミュージカル等の依頼公演にも数多く出演。独自の構成によるプログラム、幅広いレパートリーを生かした学校公演、演奏者と聴衆の距離を縮めるような室内楽公演にも積極的に取り組んでいる。海外（2007年中国・2009年タイ・2017年韓国）でも公演し成功を収める。2022年度からは「超！有名曲シリーズ」を含む新たなシリーズをスタートし、2023年の40周年に向け意欲的な試みを企画している。

2015年半田市と音楽文化振興の協定、2019年一般財団法人稲沢市文化振興財団とも協定を締結。1996年「平成7年度愛知県芸術文化選奨文化賞」、2005年「平成16年度名古屋芸術奨励賞」、2007年「第2回名古屋音楽ベンクラブ賞」受賞。

Vol.4~6のご案内 (会場) 電気文化会館ザ・コンサートホール

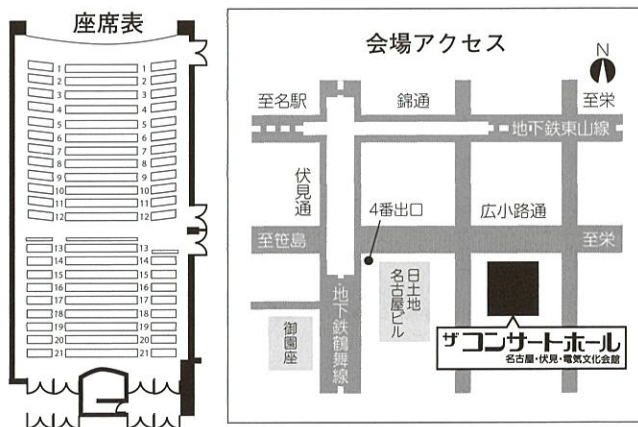
指揮/角田鋼亮(常任指揮者)

Vol.4(2023年) ミハエル・ハイドン：交響曲39番ハ長調 / ハイドン：交響曲第99番変ホ長調
ハイドン：交響曲第100番ハ長調「軍隊」

Vol.5(2024年) ボッケリーニ：交響曲二短調Op.37No.3 / ハイドン：交響曲第101番ニ長調「時計」
ハイドン：交響曲第102番変ロ長調

Vol.6(2025年) クラウス：交響曲ハ短調VB142 / ハイドン：交響曲第103番変ホ長調「太鼓連打」
ハイドン：交響曲第104番ニ長調「ロンドン」

やむを得ない事情で演奏曲目・曲順が変更になる場合がございますのでご了承ください。



〈感染症対策ご協力のお願ひ〉

■チケット購入時にご登録頂く個人情報は保健所等の指導のもとに提供する場合があります。ご了承ください。 ■発熱や体調不良の場合はご来場をお控えください。 ■会場内でのマスク着用・換温・手指消毒にご協力ください。 ■出演者への贈り物・面会はご遠慮ください。

※2022年7月現在の対策です。今後状況により変更となる場合があります。最新の情報は当団HPにてご確認ください。

